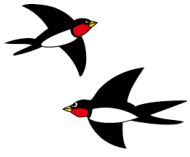




美篤の里



2019年6月4日
伊那市立美篤小学校
学校だより
No.02



校長講話

家庭自主学習に向けて

おはようございます。今日は二つのお話をします。一つは命にかかわること、もう一つは勉強にかかわることです。

一つめのお話。「しゃ、か、すい、きん」って聞いたことはありますか。これは、車に気をつけて。火に気をつけて、水に気をつけて、そしてお金に気をつけてということです。おととい、美篤の土地改良区の丸田さんが学校に来てくださり、みなさんが水路や池で水の事故にあわないようにと、ポスターを届けてくださいました。今、水路の水がとても多くなっています。皆さんの中には、水路にいたずらをした人もいます。農家の皆さんにご迷惑をおかけすることのないように、また自分の命も守ってください。



「命は
ひとつしかりません」
交通安全の約束
一、とびださない
一、左・右・左を見る
一、おうだん歩道をわたる
一、はみださない

人の話をよく聞く
↓ 注意力を高める
↓ 事故にあう危険が減る

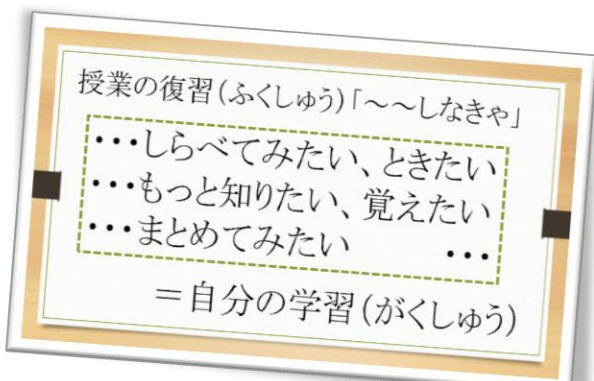
玄関黒板の児童へのメッセージ

ここからは、二つめの勉強の話です。今年から宿題に自主学習を取り入れ始めました。勉強は、人に言われてするものではありません。自分の力を伸ばしたい、自分をもっとよくしたいと思ったら、言われる前に、自分から行うことが大事です。そういう力を伸ばすためのものですので、友達と比べるものでもありません。自分への挑戦です。でも、自分だけで考えても、なかなかうまくいかないものですので、友達の勉強を参考にしたり真似たりすることは、よいことです。そこから、自分の勉強の方法や中身ができてくればしめたものです。そこで、高学年のみなさんの自主学習のノートを皆さんにお見せしますので参考にしてください。どんどん映していきますので、イメージを膨らませてください。

たくさん自主学習ノートができてきましたね。もっとたくさん友達の、もっといろいろなノートが、美篤小学校の中で育っています。クラスや学年の中でお互いに見合って、自分なりのノート作りにつなげてください。宿題と考えると、気持ちが重くなってしまいう人もいます。でも、もっと調べてみたいとか、この問題を解いてみたいとか、知りたい、覚えたいという思いを大事にしていくと、自分の学習になっていきます。そういう自分の学習をするから自主学習なのです。

最後にもう一枚、写真を出します。グループや仲間と、考えを出し合ったり、教え合ったりして、自分の考えを確かなものにして、答えを導き出す学習をしています。これが、美篤小学校の授業の目指す姿です。こういう学習ができるには、クラスがなかよしである必要があります。どのクラスも仲間作りを大切にしてください。

今日の話はここまでとします。



子どもの安全について考える

～美篤小の子どもを守り育てる会～

5月30日(木)に、「美篤小の子どもを守り育てる会」総会が視聴覚室で行われました。この会は総会と小委員会で組織され、区長、公民館長、公民館分館長、支所長、社会教育委員、青少年育成会、民生児童委員、主任児童委員、保護司会、交通安全協会役員、女性部代表、防犯指導員会長、女性部長、美篤消防分団長、美篤地区駐在所長、日赤奉仕団分団長、PTA正副会長、総務部、校外安全指導部長、各支部長の皆さんで構成されています。会則により、本年度は、青少年育成会会長の遠山 豊さんが会長、区長会長の赤羽 今男さん、PTA会長の富島 克洋さんが副会長に選出されました。

昨年は、春に学区内で不審者遭遇事案が発生したことや、新潟で起きた事件を受け、不審者から子どもを守るにはどうすればよいか、話題になりました。今年度は、先日の川崎市の事件を受け、登下校時の子どもの見守り(見守り隊の充実)を含めた安全対策について、参加した53名の皆さんでグループ別に話し合いました。川崎市の事件のように、本当にやるせない、どうやったら防げたのか、答えがなかなか見いだせない難しい問題ではありますが、活発な意見交換が行われました。抜粋して紹介します。

<歩行・自転車乗り>

- ・市内での自転車事故が発生している現状をふまえ、「2～3人で横に並んで道を歩く子ども」「自転車禁止道路で自転車に乗る子ども」への学校での継続的な指導と地域の方からの声かけを行う。
- ・各地区の危険箇所、冬季に滑って危ない道路、水の事故が心配な河川や水路など、地域の方に周知してもらうようにする。
- ・横断歩道で横断旗を使って横断するようにしたい。
- ・自動車の通行が多い地点での見守りの強化が必要。通行する車のスピードが課題。
- ・登校班が20名を超えることあり。区分けの検討を行う。

・グリーンベルトの設置は、歩行する子どもたちにも歩くべき場所が見える化されることや、ドライバーにも注意喚起となるので有効である。

<見守り隊の充実に向けて>

- ・育成会では、環境チェックとして青少年補導委員と共催で7月に実施している。
- ・東部中学校で見守り隊の計画が進んでいる。小学校でも、みすずっ子応援団の安全支援の中に子ども見守り隊の名称があるが、組織化して義務付けすると参加しにくい。
- ・地域住民の子どもたちへの日常的な挨拶、声かけを通して顔を覚えてもらうことで、不審者と間違われないようにしたい。
- ・見守り隊でポイントとなるのは、顔を覚えてもらうこと。ベストなどではっきりと分かるものがほしい。
- ・見守りの支援をしてくださる方に、名札を配布する。ベストやタスキは目立つのでよいが、予算に限りがあるのでまとまった数が揃えられない。
- ・各種会合の折に、美篤の危険を周知していき、喚起を促したい。

<安心の家について>

- ・地区の児童数に対して安心の家の登録数が少ない地区がある。
- ・通学路に隣接していなくても、数を増やしていくことで抑止力につながる。
- ・安心の家への加入について、コンビニ等の事業所に学校やPTAから働きかけていく必要がある。

駐在所長の上野さんから、川崎市の事件の犯人は、一見普通の服装だったが、両手に手袋をして歩いている点が不審であった。その時点で通報(地域の目)があれば、職務質問もできたかもしれない。また、犯人はいなくなったが、模倣する者が現れるかもしれない危険性から、現在も保護者同伴による集団登校をしている学校もある。というお話をいただきました。また、不審者をみかけたらすぐに110番へ通報することを確認しました。

最後に学校評議員の方から、出された意見をもとに、実行できそうなものに優先順位をつけて一歩ずつ取り組んでいこうというご意見をいただきましたので、実効性の高い次の2点について取り組んでまいります。



<守り育てる会の提案を受けて、学校からのお願い>

- 「安心の家」の登録をすすめるために、PTAのみなさん、地域の皆さんで通学路沿いに限らず、ご協力いただけるお家や店舗、事業所へ積極的に安心の家のプリントを称して依頼をしてください。内諾いただけましたら、学校へお知らせください。学校から安心の家へ伺い、看板をお渡しするとともに正式に登録する旨をお伝えしていきます。
- 「見守りボランティア」のための首から提げるネームプレートを用意してあります。見守りを義務付けるものではありません。不定期でも結構です。見守りにご協力いただける方は、ボランティア保険に加入させていただきますので美篤小学校 教頭 (TEL 72-2588) までご連絡ください。ご協力をお願いいたします。